



インターナショナル新書

# 『ダ・ヴィンチ、 501年目の旅』

布施英利（美術批評家、解剖学者）

定価：本体920円＋税  
体裁：新書判／280ページ  
発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）  
ISBN：978-4-7976-8057-7

死後500年を経て、  
われわれを魅了し続ける  
レオナルド・ダ・ヴィンチ。  
今なお深まる美の謎と  
存在感の実像に迫る。



8月7日(金)発売！



布施英利(ふせ・ひでと)

美術批評家・解剖学者。1960年生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。同大学院博士課程修了(美術解剖学専攻)。学術博士。東京大学医学部助手(解剖学)などを経て、解剖学と美術が交差する美の理論を探究し続ける。大学院生のときに出版した『脳の中の美術館』以来、著書は『死体を探せ!』『構図がわかれば絵画がわかる』『ヌードがわかれば美術がわかる』など約50冊を数える。オンラインの学校「電腦アカデミア」の活動にも取り組んでいる。

死後500年、21世紀のレオナルド・ダ・ヴィンチの姿を求めて美術批評家の著者は旅に出た。パリ、ロンドン、ミラノ、フィレンツェ…、節目の年に開催される大がかりな展覧会やゆかりの地を巡る。美術史、文化史からのアプローチにとどまらず、解剖学や工学などの視点からも作品を見ることで浮かび上がってきたダ・ヴィンチの新しい姿とは？

#### ダ・ヴィンチを501年分、理解するポイント

- 『最後の晚餐』、使徒たちの腕の動きが意味するものは？
- 『受胎告知』、マリアの腕はなぜ長い？



レオナルド・ダ・ヴィンチ  
『受胎告知』（1472～75年頃）  
ウフィツィ美術館  
（フィレンツェ）

- 「 sfumato」という技法で描かれ顔が光らない『岩窟の聖母』
- ミケランジェロ、ゴッホ、セザンヌ、ピカソ、ウォーホルら  
古今のアーティストとの意外な関係

#### ———目次より———

- 第1章 2005年、イタリア、ドイツ、フランス、ロシア  
……ダ・ヴィンチ全点踏破を目指す旅
- 第2章 2017年、フィレンツェ、ミラノ……ダ・ヴィンチ若き日の絵画
- 第3章 2019年夏、ロンドン……ダ・ヴィンチの手稿
- 第4章 2019年冬、ロンドン、パリ……ダ・ヴィンチの絵画
- 第5章 パリ、501年目の『モナリザ』への旅

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。下記までお問い合わせください。

#### 【本書のお問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話03-5211-2632 公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp>